

トマト黄化葉巻病の発生情報（HP版）

平成14年11月27日
熊本県病害虫防除所

トマト黄化葉巻病はTYLCV（Tomato Yellow Leaf Curl Virus）を病原とするウイルス病で、シルバーリーフコナジラミによって媒介されます。このウイルス病の感染を防ぐためのポイントは、ウイルスを媒介するシルバーリーフコナジラミを徹底防除することです。

本年は、育苗期や定植直後から本病の発生が各地で目立っており、現在も感染および被害が拡大しているところがあります。また、11月のトマトの巡回調査では、コナジラミ類の発生が平年に比べやや多い状況でしたので、各圃場での発生動向に注意し、本病の防除として以下の対策を徹底しましょう。

< 当面の対策 >

- （１） 栽培期間中に発病した株は、二次伝染源および次作への感染源になるので見つけしだい抜き取り埋設処分する。また、腋芽（わき芽）や摘果などの残さも圃場や周辺に放置せず埋設処分する。この際、シルバーリーフコナジラミが他の株へ移動することがあるので、事前にトマトの薬剤散布を行った後に抜き取り等を行うようにする。
- （２） ウイルスを媒介するシルバーリーフコナジラミの薬剤防除（安全使用の遵守）を徹底する。この際、薬剤が葉の裏にかかるようにていねいに散布する。また、ラノーテープ設置圃場においても薬剤防除を行う。
- （３） 春期以降（特に3月以降）に、シルバーリーフコナジラミの野外から施設内への侵入及び外部への飛散を防止するため、施設開口部に防虫ネット（1mm目以下）を張る。
- （４） 黄色粘着テープ等を利用し、コナジラミ類の発生時期や量を把握する。

< 次年度の作付けを念頭に置いた対策 >

- （１） 圃場周辺の雑草はシルバーリーフコナジラミの寄主植物（生息場所）となるので、除去する。ただし、雑草を刈り取るとシルバーリーフコナジラミがトマトに移動することがあるので、事前にトマトの薬剤散布を行った後に刈り取るようにする。
- （２） 腋芽や摘果などの残さ及び実生苗（前年度のトマトの種が自然に発芽したもの）も圃場や周辺に放置せず埋設処分する。
- （３） 収穫終了時まで防除を徹底する。収穫終了後はそのまま放置せず、シルバーリーフコナジラミが施設外に飛び出さないようにハウスを密閉し、密閉状態を一週間から二週間保ち、トマトが枯れ害虫が死滅した後に片づける。
- （４） 地域全体でウイルス密度が高まると次年度以降も続けて発病する危険性が高いので、地域全体で上記の防除を徹底する。
- （５） 本病の未発生地域においても、トマト栽培があれば発生する可能性が高いので十分に注意する。

トマトでのシルバーリーフコナジラミ防除薬剤（熊本県病害虫防除基準より抜粋）

薬剤名（系統）	収穫前 使用日数	総使用 回数	希釈濃度 使用量	浸透 移行性	対象	
					成虫	幼虫
（ネオニコチノイド [®] 剤）						
アドマイヤー水和剤	前日まで	3回以内	2,000倍			
バリアード顆粒水和剤	前日まで	3回以内	4,000倍			
ベストガード水溶剤	前日まで	3回以内	1,000～2,000倍			
モスピラン水溶剤	前日まで	2回以内	2,000倍			
（合成ピレスロイド [®] 剤）						
トレボンEW	前日まで	2回以内	1,000倍			
（IGR剤）						
アプロード水和剤	前日まで	3回以内	1,000倍			
ノーモルト乳剤	前日まで	2回以内	2,000倍			
（その他）						
サンマイトフロアブル	前日まで	2回以内	1,000～1,500倍			
チェス水和剤	前日まで	3回以内	3,000倍			

注意：使用にあたっては、ラベル等で使用上の注意を確認し、安全使用に努めること。